



# 講演内容

10月14日(土) 13:00~16:30 開講式、講演、質疑応答

## 「言語学入門」

### 牧 秀樹准教授(言語学)



この講義では、英語と日本語は、そもそも、一般に考えられているほど異なる言語なのかという問いに取り組み、この講義の終わりには、両言語は、驚くほど、類似していることを示します。時間が許せば、「日本語は、どこから来たのか」という問いにも迫ります。

高校生の方には、大学入試に役立つ秘密の知識を用意しています。また、海外旅行好きの方には、アイルランド語やモンゴル語も用意しています。

## 「第二言語習得論」

### 笠井 千勢准教授(言語学)



母国語の他に二つ目の言語を習得すると「おかしなこと」が起こる？第二言語習得が起こす認知変化を中心に講義します。言語には思考に影響を及ぼす力があります。そして、言語によってその影響が異なります。では、二つの言語を習得した人はどのような思考過程をもつのでしょうか？英語を習得した日本人の例を紹介しながら講義を進めます。

10月21日(土) 13:00~16:30 講演、質疑応答

## 「情報操作とやらせ」

### 野原 仁教授(ジャーナリズム論)



情報操作を「何らかの目的を達成するために、意図的に情報を歪曲・ねつ造・隠蔽すること」と定義するならば、私たちの日常生活のあらゆる場面で、何らかの形の情報操作が行われています。また、次々と起こるテレビ番組の「やらせ」も情報操作の一種と言えます。この講義では、テレビ局勤務の経験などに基づく具体的な事例を挙げて、なぜ、どのようにして、情報操作・やらせが行われるのかについて学んでもらいます。

## 「原爆投下の世界史」

### 加藤 公一講師(現代史)

アジア太平洋戦争末期の1945年8月6日午前8時15分、人類史上はじめて、原子爆弾が広島市民の頭上に投下されました。その結果、放射線被曝による被害も含めて、投下後4カ月以内に死者約16万人にも達したとされています。原爆はなぜ一般市民の上に投下されたのでしょうか？この講座では、原爆投下という事件を世界史のなかに位置付けて考えてみます。また、そもそも原爆はなぜ投下されたのでしょうか？その当時の戦況や国際情勢から検討します。

10月28日(土) 13:00~16:30 講演、質疑応答、閉講式

## 「人口減少社会の暮らしと制度改革」

### 西村 貢教授(財政学)



現在の日本は、2005年国勢調査によって、少子高齢者化を伴う人口減少社会への移行が明らかとなりました。日本で進行している人口減少社会への移行の特徴は、どこにあるのでしょうか。人口減少によって、住民の暮らしや地域社会にどのような問題が発生しつつあるのでしょうか。また、少子高齢者社会への移行によって、既成の社会制度にどのような「制度疲労」・「機能不全」の現象が生じつつあるのでしょうか。

## 「交通と地域」

### 應 江黔教授(交通科学)



JR東海によるリニア中央新幹線の巨額な建設投資とは対照的に、一部の地域では鉄道路線の存続が危ぶまれています。この格差は、中心都市への人口集中と地方の過疎化及び自動車依存という地域の両極化の表れでもあります。この講座では、地域交通の状況とその背後にある経済的メカニズムと課題を分析し、中国や英国などの状況と比較しながら、交通システムの全体像を捉えます。また、一方では、太陽光発電などの分散型エネルギー、自動運転、カーシェアリングなど、地方に適した魅力的な技術の開発と普及も進んでいます。色んな課題と可能性から、交通と地域の望ましい姿を考えてみたいと思います。